

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201390
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホームなごみ
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1 (電 話) 0736-61-5577

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年4月20日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	10.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900	円

(4)利用者の概要(1 月 1 日現在)

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1		0	名	要介護2	6	名
要介護3		9	名	要介護4	2	名
要介護5		1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	82 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当核事業所は、地域に根ざした福祉を幅広く運営する皆楽園のグループホームで小規模多機能事業所が併設されています。平屋で各ユニット毎に玄関があり、中庭の木や花、畑の野菜やホーム内の飾り付けで季節を感じることが出来ます。また利用者の各居室にトイレを設置し、和室を掘りごたつにする等の工夫が見られます。管理者、職員は常に「自分の親だったら」を念頭に、理念に掲げられているように誰もが利用したいホームを目指し、利用者本位に生き生きと暮らせるような支援を心がけています。地域へも積極的に働きかけ、ホームの行事を回覧板で知らせ地域の方にも参加してもらったり、運営推進会議を利用して、ホームを災害の一時避難場所に提供する等、利用者と地域の架け橋となるよう努力されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題については職員で話し合いながら改善に向けて取り組まれています。今後、運営推進会議で地域の方々に参加を依頼し、協力を得て防火、避難訓練の実施を検討しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価は昨年の自己評価票を全職員に配布して加筆してもらい、管理者がまとめて作成した。出来上がった評価票は全職員に回覧するなど、職員全員で取り組まれています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2か月に一度、家族、併設する小規模多機能事業所の利用者の家族、区長、民生委員、市役所職員、職員等が参加し開催されています。会議ではホームの活動報告をはじめ、外部評価の報告や避難訓練の呼びかけ等をこなしています。また参加者から情報を得たり、要望や意見を聞くよい機会となっており、運営に反映されています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族がこられた際は常に話しかけ、何でも話していただけるような雰囲気を作っています。年1回実施している家族懇親会でも意見や要望を聞くようにしていますが、出された意見等は都度ミーティング時に話し合い家族にも報告し、運営に反映させています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会に入っており、行事の案内を回覧板で知らせ、地域の参加を促しています。市の敬老会を観に行ったり、地域の清掃にも参加、ホームの夏祭りには多くの地域の方の参加があります。また中学生の体験学習やボランティアの来訪もあり、日常的に地域との交流を図っています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で共に暮らすことを念頭に、職員で話し合い作りあげた理念を各ユニット玄関、リビングに掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	つまづいた時は理念に立ち返り、職員一人ひとりが「自分の親だったら」と問いかけながら日々のケアに活かしている。毎月の会議の場でも理念を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入っており、行事の案内を回覧板で知らせ、地域の参加を促している。市の敬老会を観に行ったり、地域の清掃にも参加、ホームの夏祭りには多くの地域の方の参加がある。また中学生の体験学習やボランティアの来訪もあり、日常的に地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は昨年の自己評価票を全職員にを配布して加筆してもらい、管理者がまとめて作成した。出来上がった評価票は全職員に回覧するなど、職員全員での取り組みは評価できる。前回の課題については運営推進会議にて消防団や自治会にも参加を呼びかける等、改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度、ホーム家族、併設する小規模多機能事業所の利用者の家族、区長、民生委員、市役所職員、職員等が参加し開催されている。会議ではホームの活動報告をはじめ、外部評価の報告や避難訓練の呼びかけ等をこなしている。また参加者から情報を得たり、要望や意見を聞くよい機会となっており、運営に反映されている。		

グループホームなごみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加もあり、市担当者とは顔馴染みの関係が構築されている。申請時には利用者と一緒に出向いて行ったり何でも相談するようにし、連携をとりながらサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に会う機会を確保するため、月々の利用料もあえて持参してもらい、来所時に日ごろの報告をしている。また日常生活や、介護状況、連絡事項等が書かれた「利用者月次報告書」を利用者毎に作成し郵送している。その際、金銭報告についても出納張のコピーと領収書を送付し、家族の来所持に確認サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には常に話しかけ、何でも話してもらえる雰囲気を作るよう心がけている。年1回実施している家族懇親会でも意見や要望を聞くようにしている。出された意見等はその都度ミーティング時に話し合い対処し、家族にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は最小限に留められており、管理者は職員と話をしたり相談に乗る機会を多く持ち、職員の離職を防ぐ努力をしている。新しい職員が入る場合は約1か月かけてベテラン職員に付いて、利用者との馴染みの関係づくりをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会や市主催の外部研修に出来るだけ参加するようにしており、研修後は報告書を作成し、会議の際に報告している。法人内研修は多くの職員が参加できるように夜間に開催され自由に出席している。研修時の資料はホームに残されていません。	○	研修資料は、情報を他の職員とも共有できるように、コピーするなどされ、閲覧用の物を残されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県のグループホーム連絡会に加盟しており、研修体制や連絡体制が構築されている。2か月ごとの管理者の交流会を始め、職員相互交換研修を通じて地域の他のグループホームと交流し、サービスの質の向上につながっている。また全国グループホーム協会にも加入し、全国大会にも参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族には見学をお願いし、他の利用者と一緒に過ごしてホームの雰囲気を覚えてもらっている。入居後は不安にならないよう職員間で話し合い対応したり、電話で声を聞いたり、来所してもらうなど家族の協力を得ながら徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で漬物や梅干のつくり方など教えてもらったり、コーヒーを一緒に飲みながら戦争話や昔の体験を聞く機会がある。時には利用者から職員へねぎらいや感謝の言葉を掛けてもらうなど、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望や意向を把握する事に努めている。また、思いを伝えられない方に関しては様子や態度で把握し、家族からも情報を得ている。センター方式を活用しながら職員間で情報を共有し、話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の日々の関わりの中から要望を取り入れるようにしており職員間では毎月ケース会議で意見交換を行い、より良く暮らすための本人に合ったケアプランが立てられている。家族には原案を見せて希望があれば追加している。場合によって主治医の意見を聞き、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しをされており、毎月のケース会議で全利用者について話し合い、1ヶ月毎のモニタリング、評価もなされている。状態に変化が見られる利用者にはその都度見直しを行っている。	○	介護計画や日々の記録も丁寧に作成されているが、介護計画と日々の記録がぶれることなく、毎月のモニタリングや評価にも結び付くような記載方法の検討を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助や家族にエアメールを出すなどの個別の外出、仏壇の花や嗜好品の買い物など要望に応じて柔軟な対応がなされている。またホームで家族を呼んで法要をされたこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居前からのかかりつけ医を継続されており、定期受診その他の状況に応じて受診介助している。緊急時はそれぞれの主治医に相談し、夜間は協力病院との連携を図っている。また併設の小規模多機能事業所の看護師の協力を得ながら日々の健康管理にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが出来ること、出来ないことについて家族に説明をし、その都度意向を確認している。ターミナルについては家族、かかりつけ医、職員で話し合いながら利用者にとっての最善の方法を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は会議の中でも話し合いを持ち、一人ひとりに合わせた言葉掛けや利用者本位の介護を心がけている。個人ファイルについては、事務所内の鍵付き書庫に保管されるなど、個人情報の保護を徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は起床した順に朝食を取られ夜寝る時間もまちまちで、ラジオ体操をしたり、廊下を歩いたり、家事参加するなど体調や気分に合わせて、一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員と一緒に考え買い物に行き、調理や配膳、食器拭きなど職員と一緒にしている。コップと箸も利用者毎の希望に合わせて揃えており、職員も同じ食事を同じテーブルでとりながら楽しい雰囲気になるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日午後から夕食前までの入浴時間となっているが、希望があれば夕食後の入浴も可能である。入浴を拒否される方についても声掛けを工夫したり、家族の協力で入浴を楽しめるように支援している。入浴の順番は利用者同士で決めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今の季節、ざぼんの皮煮を作ってくれたり、調理や掃除、洗濯物たたみ、野菜作りや草拔等、一人ひとりの得意分野を活かし、今ある力を発揮できる場面づくりを支援している。時々ドライブや外食に出かけ、気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩や近くの根来寺へ出かけたり、喫茶店へアイスクリームを食べに行くなどしている。弁当持参での花見やドライブにも出かけている。行けない日は中庭や畑に出て日光浴されることもある。今後は個別に希望される場所への外出を検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは日中は施錠せず、玄関にセンサーを付けて対応している。施錠しないことについては家族にも了解を得ており、地域の方にも理解、協力を得ている。利用者が外出したそう時は職員がさりげなく声をかけ、一緒に散歩等に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、消防署立会いのもと避難訓練を実施しており、夜間想定避難訓練や消火器具の点検や避難経路の確認をしている。運営推進会議でも地域の参加を呼びかけ、防災時の一時避難場としてホームを提供したり、ホームと地域合同での防火、避難訓練の実施を検討されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回記録し、水分量については大まかに把握しており、必要な方のみ記録をしている。栄養面については法人の栄養士に定期的に献立のアドバイスをしてもらっている。また、一人ひとりの状態に合わせてミキサー食や刻み食、これまでの習慣に合わせて茶粥なども提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広くスペースに余裕を持たせ、各ユニットの間に中庭を設け、縦の木を植えている。畑では季節の花や野菜が作られ、リビングには季節を感じる手作りの飾りが飾られている。一段高い畳敷きの間には近所の方から頂いたお雛様を飾ったり、掘りごたつにして寝ころぶ風景も見られる。ソファや椅子を所どころに配置し、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレを設置し、クローゼット、ベッドが完備された居室に、ホームでは馴染みのものの持参をされるようお願いしており、利用者は家具、テーブルや椅子、テレビ、冷蔵庫、家族に写真などを持参され、一人ひとりに合った居室づくりがなされている。		